【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【公表番号】特表2013-536781(P2013-536781A)
【公表日】平成25年9月26日(2013.9.26)
【年通号数】公開・登録公報2013-052
【出願番号】特願2013-526390(P2013-526390)
【国際特許分類】
Ｂ６０Ｃ　11/00　(2006.01)
Ｂ６０Ｃ　1/00　(2006.01)
Ｂ６０Ｃ　11/04　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　1/08　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　21/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６０Ｃ　11/00　Ｇ
Ｂ６０Ｃ　1/00　Ｚ
Ｂ６０Ｃ　11/04　Ｅ
Ｃ０８Ｌ　1/08
Ｃ０８Ｌ　21/00

【誤訳訂正書】
【提出日】平成28年9月8日(2016.9.8)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
キャビティ内に配置された加水分解性充填材を含むトレッドを備えたタイヤであって、前記加水分解性充填材が、加水分解性セルロース系熱可塑性樹脂と不飽和熱可塑性エラストマーとの混合物を含むことを特徴とする、タイヤ。
【請求項２】
前記セルロース系熱可塑性樹脂は、比率Ａで存在し、前記不飽和熱可塑性エラストマーは、比率Ｂで存在し、Ｂ／Ａ比は、０．１～１であり、Ａ及びＢは、質量基準で表される、請求項１記載のタイヤ。
【請求項３】
Ｂ／Ａ比が、０．２５～０．７５である、請求項２記載のタイヤ。
【請求項４】
前記セルロース系熱可塑性樹脂が、アセテート、ブチレート、アセテートブチレート、プロピオネート及びアセテートプロピオネートから成る群から選択された少なくとも１つのセルロースエステルをベースとする、請求項１～３のいずれかに記載のタイヤ。
【請求項５】
前記セルロース系熱可塑性樹脂が、セルロースアセテートをベースとする、請求項４記載のタイヤ。
【請求項６】
前記セルロース系熱可塑性樹脂が、セルロースアセテートとグリセロールアセテートとの混合物で構成されている、請求項５記載のタイヤ。
【請求項７】

前記不飽和熱可塑性エラストマーが、不飽和熱可塑性スチレンエラストマーであり、かつスチレンブロック及びジエンブロックを含むコポリマーである、請求項１～６のいずれかに記載のタイヤ。
【請求項８】
前記不飽和熱可塑性スチレンエラストマーが、スチレン／ブタジエン（ＳＢ）、スチレン／イソプレン（ＳＩ）、スチレン／イソプレン／スチレン（ＳＩＳ）、スチレン／ブタジエン／ブチレン（ＳＢＢ）、スチレン／ブタジエン／イソプレン（ＳＢＩ）、スチレン／ブタジエン／スチレン（ＳＢＳ）、スチレン／ブタジエン／ブチレン／スチレン（ＳＢＢＳ）及びスチレン／ブタジエン／イソプレン／スチレン（ＳＢＩＳ）ブロックコポリマー及びこれらコポリマーの混合物から成る群から選択される、請求項７記載のタイヤ。
【請求項９】
前記不飽和熱可塑性スチレンエラストマーが、ＳＢＳ又はＳＩＳコポリマーである、請求項８記載のタイヤ。
【請求項１０】
前記不飽和熱可塑性スチレンエラストマーが、エポキシ基、カルボキシル基、酸無水物基及び酸エステル基から選択された官能基を備えている、請求項７～９のいずれかに記載のタイヤ。
【請求項１１】
前記不飽和熱可塑性スチレンエラストマーが、エポキシ化エラストマーである、請求項１０記載のタイヤ。
【請求項１２】
前記キャビティが、前記トレッドの使用可能な部分に対して半径方向内方に配置されており、かつ前記キャビティが、円周方向溝を形成している、請求項１～１１のいずれかに記載のタイヤ。
【請求項１３】
セルロース系熱可塑性樹脂と不飽和熱可塑性スチレンエラストマーとの混合物を含む、タイヤのトレッドキャビティに用いられる熱可塑性組成物であって、前記セルロース系熱可塑性樹脂が、セルロースアセテートをベースとし、前記不飽和熱可塑性スチレンエラストマーが、エポキシ化されている、前記熱可塑性組成物。
【請求項１４】
タイヤのトレッドキャビティのための充填材としての請求項１３記載の組成物の使用。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１２】
有利には、分解性熱可塑性樹脂は、セルロースアセテートで構成される。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２０】
好ましくは、分解性熱可塑性樹脂は、セルロースアセテートをベースとし、不飽和熱可塑性スチレンエラストマーは、エポキシ化される。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２７
【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【００２７】
分解性セルロース系熱可塑性樹脂
「分解性セルロース系熱可塑性樹脂」という用語は、セルロースエステル、例えばセルロースアセテート、セルロースブチレート、セルロースアセテートブチレート、セルロースプロピオネート又はセルロースアセテートプロピオネートをベースとする配合物を意味しているものと理解される。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２８】
分解性セルロース系熱可塑性樹脂は、有利には、セルロースアセテートをベースとする。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３５】
好ましくは、熱可塑性エラストマーは、熱可塑性スチレンエラストマー（略して“ＴＰＳ”）である。かくして、ＴＰＳの硬質シーケンスは、スチレンポリマーをベースとする。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３６】
「スチレン」という用語は、本明細書においては、スチレンをベースとするモノマー（非置換又は置換）を意味するものとして理解されるべきであり、置換スチレンとしては、例えば、メチルスチレン（例えば、α‐メチルスチレン、β‐メチルスチレン、ｐ‐メチルスチレン又はｔ‐ブチルスチレン）又はクロロスチレン（例えば、モノクロロスチレン又はジクロロスチレン）を挙げることができる。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４６】
種々の添加剤
セルロースエステルをベースとする配合物は、種々の性状の可塑剤を含んでいてもよく、非限定的な例を挙げると、トリエチルシトレート、トリエチルアセチルシトレート、ジエチルシトレート、ジエチルフタレート、トリアセチン、エチルラクテート、メチルラクテート又はヒマシ油を挙げることができる。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００８８
【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【００８８】
Ａ　充填材／ジエン層接着試験
充填材が硬化後、ＳＢＲゴム及びシリカ（ローディア（Rhodia）社製の“Zeosil”）をベースとし、更に通常の添加剤（硫黄、促進剤、ＺｎＯ、ステアリン酸、老化防止剤）を含むジエンエラストマー層、具体的に言えば、タイヤトレッド用の通常のゴム組成物に接着する性能を試験するために接着試験（剥離試験）を実施した。